

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-199942

(P2002-199942A)

(43) 公開日 平成14年7月16日 (2002.7.16)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 B 31/00		A 4 7 B 31/00	G
65/00	6 0 1	65/00	6 0 1 B

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2000-398480 (P2000-398480)

(22) 出願日 平成12年12月27日 (2000.12.27)

(71) 出願人 000001351
コクヨ株式会社
大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

(71) 出願人 501002035
株式会社オプティマ
東京都港区三田4-18-7

(72) 発明者 杉山 統彦
大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内

(74) 代理人 100085338
弁理士 赤澤 一博 (外1名)

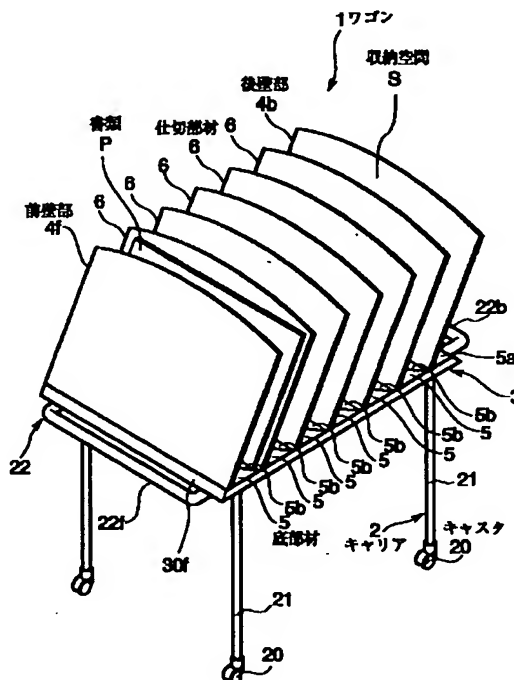
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 収納装置

(57) 【要約】

【課題】書類を収納する場合、トレータイプのものでは、書類を上積みして収納するため、その下方にどのような書類が収納されているかを一見して判別することができない。また、引き出しタイプのものでは、仕切板を垂直に設けるようにしているため、書類を収納した場合にその書類の表表紙部分を見分けることができないという課題を有していた。

【解決手段】キャスタ20を備えたワゴン1の上方に、ベース板3を設け、これに前壁部4f・後壁部4bと、これらの壁部間に傾斜して設けられた仕切部材6を水平に設ける。そして、この仕切部材6によって分割された収納空間Sに書類Pを収納できるようにする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】物品を収納するための収納空間を有してなる移動式の収納装置において、対向して設けられた壁部と、当該壁部の間に傾斜して設けられた仕切部とを具備してなることを特徴とする収納装置。

【請求項2】物品を収納するための収納空間を有してなる収納装置において、対向して設けられた壁部と、当該壁部の間に傾斜して設けられた仕切部とを具備し、当該仕切部を水平に設けたことを特徴とする収納装置。

【請求項3】物品を収納するための収納空間を有してなる収納装置において、対向して設けられた壁部と、当該壁部の間に傾斜して設けられた仕切部とを具備し、当該仕切部によって形成された収納空間を当該仕切部の側方に開口させたことを特徴とする収納装置。

【請求項4】前記仕切部によって分割された収納空間に、当該仕切部と略直交する底部を設けたことを特徴とする請求項1、2、3に記載の収納装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、書類などを収納する収納装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】現在、デスク上で使用された書類を収納するものとして、トレイタイプのものや引き出しタイプのものなどがある。このトレイタイプのものは、厚紙やプラスチックなどで構成された箱状のものに書類を上積みして収納できるようにしたものであり、また、引き出しタイプのものは、移動可能に設けられたワゴンに数段の引き出しを設けるとともに、この引き出しの内部に複数枚の仕切板を設けて縦方向に書類を収納できるようにしたものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、このようなトレイタイプのものでは、書類を上積みして収納するため、その下方にどのような書類が収納されているかを見つけて判別することができない。また、引き出しタイプのものでは、仕切板を垂直に設けるようにしているため、書類を収納した場合にその書類の表表紙部分を見分けることができず、特に、書類が離れた場合は、その仕切板の境部分が分からなくなるので、書類の判別を行なうことができないという課題を有していた。

【0004】そこで、本発明は上記問題を解決するために、書類などの物品を分類して収納できるようにするとともに、このように収納された書類などを容易に取り出せるような収納装置を提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】すなわち、本発明は、物品を収納するための収納空間を有してなる移動式の収納装置において、対向して設けられた壁部と、当該壁部の

間に傾斜して設けられた仕切部とを具備してなることを特徴とするものである。

【0006】このように、仕切部を傾斜して設けるようにしたので、この仕切部で分割された収納空間に書類を収納することができ、また、移動式の収納装置においてこのような傾斜した仕切部を設けるようにしたので、例えば、机上で作業をしながら、その収納された書類の表表紙が見えるような位置に収納装置を移動させて、書類を容易に見分けるようにすることができる。なお、この壁部としては、好ましくは、仕切部と同一角度に設定された壁部を設けることが望ましいが、これに限らず、一方の壁部のみを直立して設けるとともに他方の壁部を傾斜して設ける方法や、対向する壁部をともに直立して設けるようにしても良い。

【0007】また、物品を収納するための収納空間を有してなる収納装置において、対向して設けられた壁部と、当該壁部の間に傾斜して設けられた仕切部とを具備し、当該仕切部を水平に設けるように構成することもできる。

【0008】このように構成した場合は、仕切部を水平に並べているので収納装置の高さ方向の寸法を抑えることができ、これによって机の下などに収納させることができるようになる。

【0009】また、このように仕切部材によって形成された収納空間に書類などの物品を容易に収納できるようにするために、仕切部の側方に開口させるように構成すると良い。このように仕切部の側方に開口させるようにした場合は、収納される書類などが整列されていない場合であっても、側壁などの障害物がないために容易に収納することができ、種々の大きさの書類などを収納することができるようになる。なお、ここで側方に開口させる方法としては、一方の側部にのみ開口させる方法や、両側部に開口させる方法などがあるが、一方の側部にのみ開口させる場合は、その側部で書類などの端部を整列させることができ、これによって机の側板などに沿わしてこのような収納装置を机の下などに入れることができる。また、後者のように両側部に開口させる場合は、種々の大きさを有する書類を収納空間の中央部分に収納させることができ、これによって書類の落下などを防止することができる。

【0010】また、このような収納空間に書類などを収納する場合、その底部の傾斜角度によっては書類が横方向にスライドしてしまう可能性がある。従って、このようなスライドを防止するために底部を仕切部に対して直角に設けるようにすると良い。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施の形態について図面を参照して説明する。

【0012】図1は、収納装置の一実施の形態を示すワゴン1の外観斜視図を示したものであり、書類Pを収納

した状態を示したものである。また、図2および図3はその側面図および平面図を示したものである。

【0013】このワゴン1は、移動手段たるキャスタ20を備えたキャリア2を備えるとともに、このキャリア2の上方に設けられたベース板3と、このベース板3の上面に対向して設けられた前壁部4f・後壁部4bと、これら前壁部4f・後壁部4bとの間に設けられた底部材5と仕切部材6とを設け、この前壁部4f・後壁部4bと仕切部材6との間に形成された収納空間Sに書類Pを収納できるようにしたものである。また、このワゴン1は、一般的な寸法に設定された事務用デスク（図示せず）の下方に収納できるように寸法に設定されており、具体的には、高さ方向の寸法を約50センチから60センチの間（好ましくは約53センチ）に設定し、また左右方向の寸法を約30センチから40センチの間（好ましくは約35センチ）に設定している。

【0014】このキャリア2は、上部に枠状に構成された水平フレーム22と、この水平フレーム22の内側下方から起立して設けられた複数本の脚フレーム21と、この脚フレーム21の先端部分に設けられ、進退および回転可能に設けられたキャスタ20とを設けてなるものである。この水平フレーム22の前端部分22fと後端部分22bは、ベース板3よりも前後方向に若干大きく設定して隙間を設けるようにし、これによって、この前端部分22fおよび後端部分22bを取手として使用できるようにしたものである。また、この前端部分22fおよび後端部分22bの内側には、この前端部分22fおよび後端部分22bのフレームと平行に設けられた補強フレーム22m（図2、図3参照）を適宜設けるようにしている。

【0015】このベース板3は、合板などによって略長方形形状に構成されたものであり、前後方向の寸法を、水平フレーム22の前後方向の距離よりも小さくする一方、左右方向の幅については、水平フレーム22の横フレーム22sよりも若干大きく設定しており、これによって水平フレーム22の上にベース板3を載せて横フレーム22sの下側から取付金具22kとビス22nなどで水平に固定できるようにしている。

【0016】また、このベース部材3の前端側には、後方へ向けて傾斜させた傾斜部30fを設け、この傾斜部30fと同一面上に前壁部4fを設けるとともに、ベース板3の後端側にも後壁部4bを設けて、これら前壁部4fと後壁部4bとの間に底部材5と仕切部材6を一定間隔毎に取り付けるようにしている。

【0017】この前壁部4fと後壁部4bおよびそれぞれの仕切部材6は、略同一の形状を有する平面状の合板を同一角度に傾斜させて設けたものであり、左右方向の幅をベース板3の幅と略同一に設定するとともに上端部分を湾曲して設け、更に、その下端部分に傾斜面を設けることによって、ベース板3に接着できるようにしたも

のである。また、この前壁部4f・後壁部4bと仕切部材6との間には、これらの前壁部4fや各仕切部材6を支持するとともに書類Pの下端部を保持するための底部材5を設けており、この底部材5と前壁部4f・後壁部4b・仕切部材6によって形成された各収納空間Sを左右方向および上方に開口させるようにしている。なお、これらの仕切部材6や後壁部4bは、この収納空間Sに収納される書類Pの荷重が下端部分に集中しないように、水平方向から約60度程傾けるようにするのが好ましく、また、底部材5についてもこの仕切部材6や後壁部4bに対して直交する底面5bを設けて構成すると良い。このように設定すれば、書類Pに対する荷重を下端部分に集中させることがなくなり、書類Pの下端部分がカールしたり屈曲したりするのを防止することができる。

【0018】また、後壁部4bは、その上端部分が水平フレーム22の後端部分22bの内側に位置するように設けられており、これによって後壁部4bの上端部分が他の部材、例えば、デスクの側壁部分などに接触して破損することを防止するようにしている。一方、この後壁部4bの下端部分の後方には、この後壁部4bの傾斜を支えるための後端底部5aを設けており、この後端底部5aとベース板3の後端とを共通に傾斜させることによって美観を整えるようにしている。

【0019】次に、このように構成されたワゴン1に書類Pを収納もしくは取り出す場合の操作例について説明する。

【0020】まず、デスク上に広げられている書類Pをこのワゴン1に収納する場合、デスクの下方からこのワゴン1を引き出し、挿入しやすい方向にキャリア2を回転移動させて空いている収納空間Sに書類Pを斜め方向に挿入する。この場合、挿入された書類Pが崩れ落ちないように、書類Pの重心部分を収納空間Sの中心部分に位置するように収納する。そして、このように書類Pを収納した後、デスクの下方にキャスタ20を回転移動させて収納する。一方、収納された書類Pを取り出す際、同様に、その書類Pの表表紙が見える位置にキャスタ20を回転移動させ、所望の書類Pを選択して収納空間Sから該当の書類Pを取り出す。

【0021】このように、上記実施の形態によれば、書類Pなどの物品を収納するための収納空間Sを有してなるワゴン1において、前壁部4fと後壁部4bとを設け、これら前壁部4fと後壁部4bとの間に仕切部材6を傾斜して設けるようにしたので、傾斜する収納空間Sに書類Pを収納することができ、更に、移動可能なワゴン1にこのような傾斜する収納空間Sを設けるようにしたので、デスク上で作業をしながらワゴン1を移動させて、書類Pの表表紙が見られる位置に移動させることができる。

【0022】また、この仕切部材6を水平に設けるよう

にしたので、ワゴン1の高さを抑えることができ、これによってデスクの下などに収納させることができるようになる。

【0023】更に、収納空間Sの側方に側壁などの規制部材を設けずに開口させるようにしたので、書類Pなどを整えずに収納する場合であっても、もしくは、大きい書類Pを収納する場合であっても、この収納空間Sにこれらの書類Pを収納させることができる。

【0024】また、このような収納空間Sに、仕切部材6に対して直交する底面5bを有する底部材5を設けるようにしたので、このような収納空間Sに書類などを収納した場合、その底部材5によっては書類Pが前後方向に対するずれを防止できるようになる。

【0025】なお、本発明は上記実施の形態に限定されことなく、種々変更することができる。例えば、上記実施の形態では、前壁部4fと後壁部4bとを仕切部材6と同一角度に傾斜させるようにしたが、これに限らず前壁部4fと後壁部4bとをそれぞれ別の角度・形状することもできる。また、本実施の形態では、仕切部材6を固定式のものと説明したが、これに限らず、仕切部材6を可動式のものとし、また、オプションとしてこの仕切部材6の枚数を増やすことができるようにしても良い。更に、上記実施の形態では、キャスト20を設けて移動できるようにしたが、これに限らず、レールなどにこのようなベース板や仕切部材などを設けるようにしても良い。また、本実施の形態においては、前壁部4fを独立の壁部として構成するようにしたが、これに限らず、前壁部4fの前面部分にも書類を載せられるようにしても良い。

【0026】

【発明の効果】本発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載されるような効果を奏する。

【0027】すなわち、本発明の収納装置は、物品を収納するための収納空間を有してなる移動式の収納装置において、対向して設けられた壁部と、当該壁部の間に傾斜して設けられた仕切部とを設けるようにしたので、こ

の仕切部で分割された収納空間に書類を収納することができ、また、移動式の収納装置においてこのような傾斜した仕切部を設けるようにしたので、例えば、机上で作業をしながら、その収納された書類の表表紙が見えるような角度に移動させて、書類を容易に見分けるようにすることができる。

【0028】また、物品を収納するための収納空間を有してなる収納装置において、対向して設けられた壁部と、当該壁部の間に傾斜して設けられた仕切部とを具備し、当該仕切部を水平に設けるように構成するようにしたので、仕切部を水平に並べているので収納装置の高さを抑えることができる。

【0029】更に、仕切部で分割された収納空間の側方を開口させるようにしたので、書類などの物品を容易に収納することができる。

【0030】また、このように仕切部で分割された収納空間の底部に、仕切部に対して直角な底面を設けるようにしたので、この収納空間に書類などを収納する場合、その底面によって書類のずれを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施の形態を示すワゴンの斜視図。

【図2】同形態における側面図。

【図3】同形態における平面図。

【符号の説明】

S・・・収納空間

P・・・物品（書類）

1・・・収納装置（ワゴン）

2・・・キャリア

3・・・ベース部

30 4f・・・（壁部）前壁部

4b・・・（壁部）後壁部

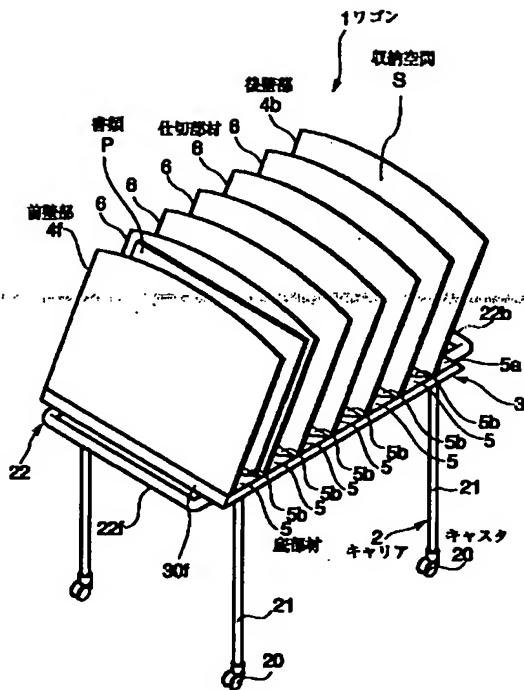
5・・・底部（底部材）

5b・・・底面

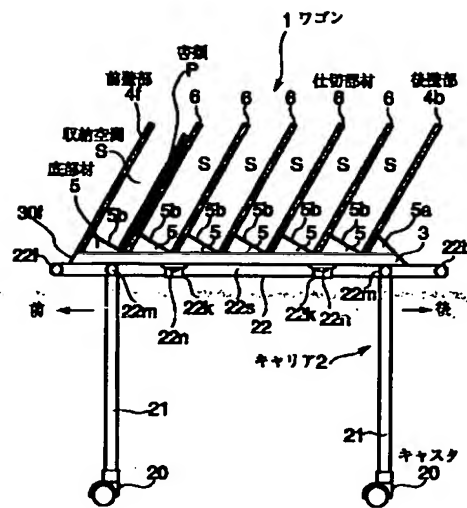
6・・・仕切部（仕切部材）

20・・・キャスト

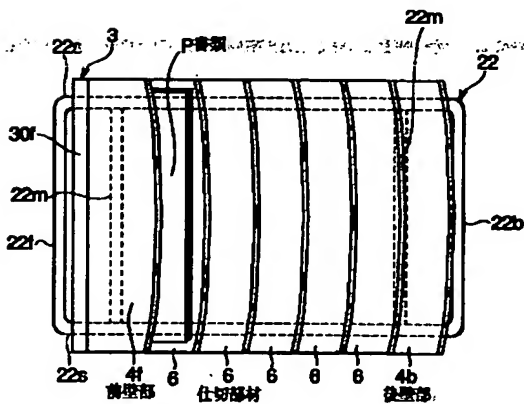
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(72)発明者 下地 寛也
 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コ
 クヨ株式会社内

(72)発明者 奥出 直人
 東京都港区三田4-18-7 株式会社オア
 ティマ内

PAT-NO: JP02002199942A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002199942 A

TITLE: STORAGE EQUIPMENT

PUBN-DATE: July 16, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SUGIYAMA, MUNEHICO	N/A
SHIMOJI, HIROYA	N/A
OKUDE, NAOTO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KOKUYO CO LTD	N/A
OPUTEIMA:KK	N/A

APPL-NO: JP2000398480

APPL-DATE: December 27, 2000

INT-CL (IPC): A47B031/00, A47B065/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide storage equipment to solve such existing problems on a storage equipment with trays that it is hard to judge what document is stored under other piled documents at a glance and also on the storage equipment with drawers that it is hard to distinguish the front cover

of a document put in a drawer because of dividers placed vertically.

SOLUTION: A base board 3 is laid on a wagon 1 with casters 20. A front wall 4f, a back wall 4b, and dividers 6 provided slantwise between these walls are placed on the base board 3 horizontally. Documents P are stored in a storing space S divided by the dividers 6.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO